

1. 開会	
	開会
2. 課長挨拶	
	参事挨拶
3. 座長挨拶	
西村座長	挨拶
4. 議事	
事務局	① 立地適正化計画策定までの流れと現在地 【資料1】について事務局より説明
西村座長	前回の懇談会で委員から出た意見について、検討した内容等があれば、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>不動産・タクシーの問題について、方向性について示していただきたい旨ご意見を頂戴したところです。</p> <p>不動産につきましては、誘導区域を設定した場合、その区域内と区域外で土地においても格差が生じてくるため、慎重に考えていくようにとのご意見のほか、不要となり残された土地についても課税がされていくことで所有者の負担となっているため、そのような土地の後始末といった面で優遇される制度や施策に関して進めてもらいたいとのご意見でした。</p> <p>この場において具体的な方向性をお示しすることが難しいですが、今後の支援策として、土地のほか空き家問題と併せて全体で考えていくために庁内で協議を引き続き進めてまいります。</p> <p>タクシーの問題につきましては、現在、地域公共交通計画を策定しているところであり、計画の中で、タクシーだけでなく、バスとの関係を含めて整合を取りながら進めてまいりますので、策定の進捗状況等をお伝えできる時に説明させていただきますので、ご了承願います。</p>
澁谷委員	<p>制度などは将来的に導入に向けて検討を進めていただきたい。</p> <p>立地適正化計画は新発田市では作られているが、新発田市の場合、物件の売買を行う際には重要事項説明書という、土地の説明書を添付するが、そこに地域のことを説明する欄が追加されている。その欄の有無で売れる土地と売れない土地というのも分かれてくる。特に郡部等では手放せない土地もあつたりするので、そういった土地に対する支援というのも様々考えていただきたい。</p>
西村座長	タクシーについては川内委員からのご意見であったと思うので、川内委員から今の回答についてご意見あればお願いしたい。
川内委員	タクシー事業に関わっているが、高齢化が進むと、タクシーやバスに頼らざるを得ない点が問題となってくる。村上市の企画戦略課において計画を作っているところで、市内のタクシー会社4件は、それぞれの地域で懸命に事業に取り組んでいるが、まだまだ足りないところもあるので相談をしながら良い方向に進めていっていただきたい。
高橋オブザーバー	確認だが、令和8年度は7月、11月、2月で計3回の会議を予定しているという認識で良いか。
事務局	<p>現在の予定であるため、変更になる可能性はあるが、年3回を予定しています。</p> <p>7月に誘導区域の設定や防災指針について説明し、11月はパブコメ前に計画案の全</p>

令和7年度 第2回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

	<p>体を確認していただき、最後の2月はほぼ完成した計画案を見ていただくという予定で進めています。</p>
事務局	<p>② 村上市の現況について 【資料2】について事務局より説明</p>
佐藤委員	<p>人口については、国勢調査を基にしているとあるが、子供たちが転出する社会減の数値についても勘案されているか。</p>
事務局	<p>国勢調査と併せて社会減、自然減といった数値も推計ではあるが加味している数値になっております。</p>
佐藤委員	<p>数値についてはもっとシビアに見ても良いのではないかと思います。最悪のケースを想定し、それも計画に入れて行っても良いと感じた。</p>
事務局	<p>将来的な人口予測についての資料や数値については確認と精査を行います。</p>
内山委員	<p>医療や教育、商業といったデータについて、5年後、10年後、30年後にどうなるかを把握しておかないと計画の組み立てが難しいのではないかと。現在ある施設について、商業施設がいつなくなるか誰も保証できないし、医療機関である個人医院は各地にあるが、皆さん高齢になってきているので、いずれ医院も無くなっていくと思われる。その辺りをもう少し掘り下げていってほしい。</p>
事務局	<p>資料については、現在公表されているデータを基に現状をまとめているので、将来的な予測という視点が組み込まれているわけではありません。区域の設定や施設を誘導するための施策を考えていくにあたって、将来的な予測も含めた形で策定作業と資料の整備を進めてまいります。</p>
棒田委員	<p>人口減少に関して、DID 区域やその他の地域で中心になりそうなエリアについても人口が減っていくと、そこに空き家が生まれるので、そこに人を誘導していくと考えられるが、人口の増減のみに着目するのではなく、地域にどういう施設、サービス機能があったら良いかということと、今ある施設、サービス機能を含めて検討していただくと良い。</p>
事務局	<p>今回の資料については、分野ごとにまとめたものになるので、地域においてどういった機能が維持されているか、失われていくかを考えながら施策に反映できるよう策定作業を進めてまいります。</p>
内山委員	<p>上水道や橋梁といった社会インフラや消火栓についても老朽化が進んでいる中で、なかなか改修が進められていない状況である。そういった要素についても触れてもらいたい。</p>
事務局	<p>上水道や消火栓といった設備に関して、他に頂戴したご意見と併せて改めて整理します。</p>
事務局	<p>③ 市民アンケート調査について 【資料2】について事務局より説明</p>
佐藤委員	<p>アンケート調査を市全域で実施していたいたが、もう率直に集落等に聞いてみるという手法も良いのではないかと。集落の方に転居していただくにはどういう条件が必要ですか、というように直接聞いていかないと踏み込んだ検討が出来ないと感じる。そのため、無作為にではなく、地域に合わせた質問を準備して行った方が良いのではないかと。</p>
事務局	<p>立地適正化計画につきましては、農村部や市の中心から離れた部分を切り捨てるという考え方ではなく、今あるサービスを保持向上させながら、持続可能な自治体を目指す</p>

	<p>計画であるので、こちらに移転してくれますかという質問については現実的には難しいと考えております。</p>
佐藤委員	<p>市街地に来るなら何が必要か、交通の便がもっと改善されれば移転に前向きになれるか等、聞き方は色々あると思う。引き出したい回答をもう少し絞らないと利用できる資料が集まらないと思う。</p>
事務局	<p>今回は現状把握のためにアンケート調査を実施したところなので、市民説明会等の機会でも住民の皆様のご意見を聞いていく。</p>
古田委員	<p>アンケート調査は2回目を行う予定があるかお聞きしたい。また、今後のアンケート調査やその他の調査で設問として聞けるのであれば、移動手段だけでなく何のために公共交通を使うのか、目的も知りたい。今回のアンケート調査では、通院や買物の頻度については分かるが何で移動しているかという移動手段についても把握すると、公共交通の在り方についての検討の余地が出てくるかと思う。</p> <p>市の公共交通に関する協議会でも同様に、頻度に関する調査は行っていると思うが、今後、都市の集約化を進めるとなると路線網についての構築に関しても考えていくことになるし、高齢になった時に自家用車から公共交通に切り替える場合には、また別の視点からの取組も必要かと思う。そのあたりについて、設問を細かくしていくことで形が見えてくると思うので、実施することになれば設問を作る時の参考意見としていただきたい。</p>
事務局	<p>企画戦略課の方で、現在公共交通計画を策定中であり、策定作業の中で利用者の皆様にアンケートを取っており、利用頻度や目的について、どういう移動手段を使っているかお聞きしているところです。その中で属性や年齢も併せて分析し、年齢層による移動手段の選択・必要性といった部分についても調整を進めております。</p> <p>このあたりを調整し、お互いに使えるデータは使っていきたいと思っておりますし、計画の方向性や内容に関しても同じ方向で作り込んでいくよう調整してまいります。</p>
佐藤委員	<p>バスの利用に関して、発着時刻が電車の時刻と整合がとれていない。バスで駅についても20分でアクセスできない状態では、電車・バスどちらの利用者にとっても不便ではないか。また、瀬波・岩船方面に向かうバスに関しては村上駅を降りて瀬波温泉に向かう場合に、適正な時間に利用できない。1時間は待たなければ利用できないという現状である。そのほかにも、村上と朝日地域を結ぶ路線バスについても同様で、村上駅へのアクセス性が悪く、こういった利用者を想定してダイヤを設定しているのか分からない。</p> <p>循環バスについても必要なか疑問を感じている。循環するのではなく、他の路線と重複する場所等で折り返して、電車の発着時刻とのアクセス性を向上させた方が良いと思う。逆に岩船の駅にバスが巡回すれば良い。荒川地域についてはバスの路線が無いため、電車を利用する方が対象になるが、荒川から村上総合病院を利用されている人も多いと思う。現在は村上駅の西口には出口が無いので、それをJRに主導してもらうことなく、簡易的なもので良いので設置すれば利用者にとっても利便性が上がるし効率化されて良いと感じる。</p>
事務局	<p>電車との接続が良くないという点については、運転士不足によりダイヤの組み立てが難しい面もあります。こういったダイヤを組み立てるか、という点に関しては事業者様と協議していく中で、利用者層は通学する学生をメインにして、通学の電車に合わせる</p>

	<p>形を基本として組み立てています。</p> <p>お買い物に対応した路線が無いという点につきましては、今後の課題として事務局でも認識しており、検討を行っているところです。</p>
澁谷委員	<p>アンケート調査において、転居の可能性について村上市外と答えている方が多い。これについては、村上市が嫌で転居したいという考えよりも、他の市町村なら子育てしやすい環境だから、そちらに行くという考えの方が多くはないかと思う。他の市町村では、土地や住宅の売買にあたって、市外から移ってこられた場合は補助金が出るといった手厚い支援を行っている。村上市に関してはそういった支援策について他の市町村よりも手薄に感じるので、今後そういった支援策について検討をお願いしたい。</p>
事務局	<p>移住者への支援策は整備していますが、市内で転居される方に関しては、今後居住誘導区域へ誘導するための施策を作っていく中で庁内の関係課で協議を進めてまいります。</p>
川内委員	<p>村上では人口減少が進んでいる。若い人が進学や就職で県外に出て行ってしまい、地元に残らないし、いったん出て行ったら帰ってこない。就職に関して言えば、生活していくにあたって十分な給与が出ているといった魅力ある企業が少ない。まず人口が少なければ取組を進めても良い町は作れないので、魅力ある働く場所を作ること、そのための企業誘致といった取組についても考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>人口減少問題については、前々から言われていたところで、進学や就職のために関東圏へ出ていく、といった状況は今後も続くと思われる。その中でも子育ての充実、地域の活性化や企業誘致といった取組については、村上市としても様々取組を行ってきたところです。まだ効果が出ていないものもあり、人口減少を止めるに至っていないが、今後も取り組んでまいります。</p> <p>今回の立地適正化計画については、人口減少が進んでいく中でも都市機能を維持し、これからもこの町で生活していけるようにするための計画ですので、施策についても作りこんでまいります。</p>
西村座長	<p>リンクベースやインキュベーション施設や機能は村上市の中で持つ予定はあるか。</p>
事務局	<p>そういった機能を持つ施設に関しては今のところ予定はしておりません。</p>
西村座長	<p>将来的には必要になってくると思うので、今の厳しい状況の中でもいかに生活の質を上げて行くかを考えていきたい。</p>
佐藤委員	<p>子供たちが東京、都会にあこがれるという気持ちは止められない。ただ、今の東京は交通費や家賃補助といった福利厚生が充実している企業に勤めないと生活していくことが難しくなっていると思う。そのあたり、あこがれる気持ちは止められないが、それだけでなく、現実的な面も伝えていくことが大切。懇談会の趣旨から外れるかもしれないが、子供たちへ教えていくことが大切なので、意見として共有してもらえれば良い。</p>
内山委員	<p>私たちの中にも当時出ていった人間はいる。私は若いうちに戻ってきたが、やはり若い人たちを止めるのは難しいから、帰ってきてくれと伝えるのが精いっぱいとも思う。</p> <p>人口減少に関しては、出生率が上がっていくことが難しいから、やはり人が減っていくことは前提として受け止めなければいけない。その前提のもとに交通インフラをどのように取り組むか、上水道の改修や買物支援に関して、どういう対策を打っていくかということをこの会で議論していきたい。</p>
事務局	<p>村上市の都市計画マスタープランにおいても、コンパクトプラスネットワークのまち</p>

	づくに関して述べてあるが、特にネットワークにおける公共交通のあり方については同じ形で維持していくことが難しいとされているところです。山北地域では新たな交通スタイルを取り入れておりますし、その取組が効果的であれば、新たな公共交通のあり方として導入を進めていくことも必要と考えております。
西村座長	新潟市でも取り組んでいるところはあるが、通院希望者に対して、ボランティアが自家用車を使って病院に連れていくといった仕組みができつつある。子育ての方もボランティアの参加を促しており、自治体の経費が削減できるメリットもある。今後はボランティアとして元気な高齢者の力を借りていくという仕組みについても一つの方策なので、それも考えていただければと思う。
事務局	④ 立地適正化計画に向けた課題と方針について 【資料2】について事務局より説明
近委員	骨格構造について、コミュニティ拠点として朝日と神林が含まれると、市全体でコンパクト化しているか疑問に思ったところであるが、今の場所に住み続けたいという方もいると思うので、そのような方たちが暮らしていける可能性についても模索していただきたい。 事業に関しては、やはり都市拠点となる場所で事業展開することが求められるし、事業者としてもその方向性で進めるようにしていくことが必要かと思う。それぞれの事業者が自分たちがやりたいようにしたいと思っても、難しい部分もあるので、市の方向性と合う形で商工業者の方もまちづくりに取り組んでいきたい。他市町村の施策も資料に掲載してありますが、今すぐ取り組めるかは分かりませんが、施策についても考えていただきたい。
事務局	事業者の皆様からすれば、活動しやすいのは人口がある程度集まっている場所であり、そういったところの方が経済的にも効率的かと思えます。そのためにも誘導区域中の人口密度はある程度維持していく必要があります。また、機能集約を図るだけでなく、農村部や山間部にお住まいの方たちに対してもネットワークを構築し、そこに暮らす人たちが継続して暮らしていける環境を整えられるように委員の皆様からもご意見やお知恵をいただきながら、計画策定を進めてまいります。
田巻委員	アンケート結果を見たとき、若い世代が転居したい割合が高く、流出することに危機感を覚えた。持続可能な都市にするためにどのようなことをやれば魅力を感じていただけるのか。コンパクトシティ構想への賛否に関して、具体的にどのような意見が出ていたかお聞かせいただきたい。
事務局	予算が限られている中で、公共施設や交通機関については持続することが難しいかもしれないが、コンパクトシティ化は進めていくべき、という意見や、法律や合理性だけでなく、そこに住んでも安心して暮らし続けられるということを第一に考えていくことが大切である、といったご意見を頂戴しております。また、山間地においては、行政による人的支援をお願いしたいといったご意見もございました。
田巻委員	否定的な意見等は出ていたか。今まとまっていないのであれば、次の時にまとめたものを見せていただければ良い。
事務局	次回にご意見を集約した資料を準備いたします。
齋藤委員	山北においては勝木と府屋周辺を中心に、乗合タクシーを導入し、人口減少が進む中でも皆さんで支援しあって生活の維持を図っている。ただ、地域の拠点として交流する

令和7年度 第2回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

	<p>場、例えば病院から帰るまでの間の待ち時間を過ごせる場所があれば良いと考えている。あと、ハード整備も大切だが、ソフト面においても、住民が考えて不便なところを補えるサービスを考えていったら良いのではないかと考えている。</p>
大滝委員	<p>人口減少について、加速していくのは仕方ないと思うが、今の子供たちは高校進学においても村上より新潟・新発田といった都市部を選ぶ傾向にある。大学進学も、東京など都会に魅力を感じるはその通りなのだが、そうやって出ていった子供たちが戻ってきたいと思えるまちづくりを考えていきたい。そのうえで、やはりアンケート調査で出てきた意見は貴重だと思うので、先ほどの委員の要望と同じだが自由意見について、傾向や要望の内容を含め細かく見られるようまとめていただきたい。</p>
事務局	<p>自由意見については約 500 件の意見を頂戴しております。次回にこういった意見をまとめて報告させていただきたいと思えます。</p>
齋藤委員	<p>村上市には桜ヶ丘高校があるが、農業や林業、工業などの専門職の高校が無くなっていき、高校卒業後に地元で就職するパターンが昔に比べ少なくなっていると思う。その点を国や県と協力できるかは分からないが、そういった面への対策にも目を向けていただければと思う。</p>
西村座長	<p>来年度以降は私立高校も無償化に向けて進んでいるところで、更に市外への進学による流出が一気に進むと思われるので、危機感をもって対応していく必要がある。</p>
事務局	<p>若者の流出を止めることは難しい状況ですが、若者の意見も大事ですので、住民説明会といった説明会についても幅広い意見を聞ける機会を広く設けてまいります。</p>
福間委員	<p>水道インフラの話題が出ていたが、上下水道の整備・改修に関しては生活に直結するので遅れてはいけない部分と思う。上下水道に関してはまずは行政がしっかりと計画して進めていかなくてはならないものなので、管理計画を作るにあたっては考えていってもらいたい。</p> <p>また、他の委員からも意見があったが、アンケート調査でわざわざ自由意見を書いてくれるというのは、それだけ思いがあるということだと思う。その意見の中で反映できるものは、ぜひとも反映して行ってほしい。</p>
事務局	<p>下水道に関しては計についてを随時更新しており、合併浄化槽のあり方についても方向性について検討を進めております。公共下水道については整備を進めてきたところですが、人口減少に合わせ施設の集約の検討していこうという動きもあると聞いております。水道事業についても同様に、人口減少に合わせて施設の集約化を計画していると聞き及んでおります。</p>
佐々木オブザーバー	<p>都市の骨格構造に関して、拠点の整理や方向性について異論はないが、利便性や魅力向上に向けた取組に関して、村上市ならではの歴史や文化といった面からのアプローチについても考えていただけるとより良いものになると思う。</p> <p>また、地域の拠点としてコミュニティ拠点を設定することになると思うが、立地適正化計画に捉われることなく、医療や福祉、空き家対策等様々な施策が横断的に考えていけると良いのではないかと考える。人口減少問題もそうだが、この計画を作ったことでその成果が出たというものではない。市全体で施策をフル活用してようやく抑止できた、効果が出た、というものなので計画だけにとどまらない形で考えていけると良いと思う。</p>
5. その他	

令和7年度 第2回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

事務局	事務連絡 次回の懇談会は、令和8年度7月頃を予定
6. 閉会	
	閉会(棒田委員)